

1 教育理念

専門知識を教授するとともに、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の充実・発展に寄与できる心豊かな専門技術者の養成を目指す。

2 教育方針（校訓）

「鍛え磨く」

人間は清新はつらつとして希望に燃えている時に、自らを厳しく鍛えることにより、すばらしい人間となる。また、どんなに優れた才能を持っていても、修養を積まなければ、その優れた才能を十分に発揮することはできない。学生が自らの持つ大きな可能性を信じ、可能性の実現に向けて果敢に挑戦することを期待し、「学校は、学生が心身を琢磨する道場である」として、校訓を「鍛え磨く」とする。

3 教育目的

その人らしい生活を支えるために、介護に必要な教養や倫理的態度を身につけさせるとともに、人の心や体の仕組みについて教授し、他職種との協働や適切な介護の提供ができる介護福祉専門職を育成する。

4 教育目標

- (1) 介護福祉に関する知識・技術を習得し、実践する能力を養う。
- (2) 介護サービス利用者を総合的に理解し、介護上の問題を解決するために必要な基本的能力を養う。
- (3) 自主性・創造性を啓発し、介護福祉の向上性を目指すための能力を養う。
- (4) 保健・医療・福祉チームの一員としての介護福祉士の役割を自覚し、その責任を遂行していく能力を養う。
- (5) 福祉サービス提供者として必要な基本的態度を養う。

5 介護教育における教育体系及び考え方

介護が実践の技術であるという性格を踏まえ、以下に挙げる3領域を編成している。

人間と社会

- (1) 人間と社会は、介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。
- (2) 介護現場では、高齢者や障害者等の介護における尊厳の保持や個別ケアが重視されており、また、多職種と協働しながら進めるチームケアにおいても、介護職員のコミュニケーション能力は必須であり、基礎的なコミュニケーション技術を高める。
- (3) 説明責任や根拠に基づく介護の実践のためには、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力、また、介護現場におけるIT技術の導入を推進するため、情報処理に関する能力を養う。
- (4) 制度に関する科目については、介護保険法や障害者自立支援法を中心に、介護実践に必要な知識という観点から「社会保障の制度」として整理・統合する。また、利用者の権利擁護の観点から、個人情報保護や消費者保護の視点も含め、職業倫理観を養う。

上記を踏まえ、「人間の理解」「社会と制度の理解」「生活活動論」「国語表現」「情報処理演習」の科目を実施する。

介護

- (1) 高齢者、障害児・者等に共通する基本的な介護技術を水準とし、かつ施設、地域（在宅）における介護に汎用できる介護技術を身につける。
- (2) 自立支援の観点から、介護予防からリハビリテーション、看取りまでを一貫して理解し、実践する能力を養う。
- (3) 若年の障害者については、就労支援を視野に入れ自立支援の重要性について理解し、実践する能力を養う。
- (4) 衣・食・住生活等の生活支援の領域については、介護に必要な視点から再編成し、実践することができるようになる。

- (5) 制度の改正に伴い、小規模な介護拠点が増加すると見込まれることから、少数の職員で業務にあたる場合であっても様々な介護ニーズに対して職員一人ひとりが的確に対応できるような介護技術を身につける。
- (6) 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を習得する。
- (7) 多職種との協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できるような内容を授業に取り入れ、実践することができる能力を養う。
- (8) リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護の実践力を養う。

「実習」について

- (1) 介護福祉士の役割理解を深めるための体験学習とする。
- (2) 専門職としての実践力を習得するための体験学習とする。
- (3) 充実した実習を行うために介護現場の協力を要請し、実践力を身につける。

上記を踏まえ、「介護の基本」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」「介護過程」「介護総合演習」「介護実習」の授業を実施する。

こころとからだのしくみ

- (1) 近年の介護現場において、利用者の介護度は重度化しているものの地域で住み続けたいとの要請もあること、予防からリハビリテーション更には看取りまで介護福祉士に求められる対応の範囲が拡大してきていることを鑑み、多職種協働によるチームアプローチが重要となっ
てきていること等を理解し、実践することができる能力を養う。
- (2) 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野に対応していくための、心理
的社会的なケアを重視し、その能力を養う。

上記を踏まえ、「発達と老化の理解」「認知症の理解」「障害の理解」「こころとからだのしくみ」
の授業を実施する。